



# 京大広報

No. 628

2007.11



京都大学と慶應義塾大学との包括協定の締結  
左から村井慶應義塾大学常任理事、安西慶應義塾大学塾長、尾池総長、松本理事・副学長  
—関連記事 本文2486ページ—

## 目次

### 〈大学の動き〉

- ベトナム国家大学ハノイ校、フエ大学との  
学術交流……………2484
- 尾池総長がベトナムを訪問……………2484
- 博士学位授与式……………2485
- 京都大学と慶應義塾大学が包括協定を締結……………2486

### 〈部局の動き〉

- 「次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点」  
開所式を挙……………2486

### 〈寸言〉

- 大学時代の財産 東久保和雄……………2487

### 〈随想〉

- 国際交流 名誉教授 伊藤嘉明……………2488

### 〈洛書〉

- 六弁の桜石 北村雅夫……………2489

### 〈話題〉

- 近畿地区国立大学体育大会の成績……………2490
- 全国七大学総合体育大会 京都大学が総合優勝  
……………2491
- 平成19年度新採用職員研修(後期)で宇治  
キャンパスを見学……………2492
- シニアキャンパス2007を開催……………2492

- 中学生向けゼミ体験講座「ジュニアキャンパス2007」  
を開催……………2493

- 宇治キャンパスでメンタルヘルス講習会を実施  
……………2493

- 宇治地区総合環境安全管理センター発足……………2494

- 教育学研究科附属臨床教育実践研究センター  
公開講座「イメージにあらわれる「文化」と  
「意識」—光と影の象徴表現—」を開催 ……2494

- 「弁護士法人 くすのき」開所 ……2495

- 〈訃報〉……………2495

- 〈お知らせ〉

- 「第1回京都・先端ナノテクスクール」&「第8回  
ナノ工学セミナー」ジョイントフォーラム……………2497

- 農学研究科シンポジウム(No Border Agric.) ……2498

- 無料法律相談のお知らせ……………2498

- 医学領域産学連携セミナー2007……………2499

- 生態学研究センター・オープンキャンパス ……2499

- 能楽鑑賞会……………2500

- 〈公開講座〉

- 玉城嘉十郎教授記念公開学術講演会(第46回) ……2500

- 〈日誌〉……………2500

- 〈隔地施設紹介〉

- フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地  
……………2501

## 隔地施設 紹介



### フィールド科学教育研究センター 上賀茂試験地 (<http://fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/kami/>)

**はじめに** 上賀茂試験地は、フィールド科学教育研究センターの里域ステーションに属しています。森里海連環学の立場から環境や生態系を様々な視点から研究していく中で、人間の影響を最も強く受けている里域のうち陸域に関する研究をする研究施設の中核的な位置を占めています。



上賀茂試験地事務室周辺

**沿革** 上賀茂試験地は、1926(大正15)年、京都大学農学部附属演習林が創設された2年後に設置されました。農学部附属演習林は、農学部林学科の教育、研究の場として活用されてきましたが、当時の演習林には、実際の林業を試行する演習林と、これを有効に行うための基礎的研究を行う試験地が設定されました。その中で、上賀茂試験地は試験地の中心としての役割を担ってきました。

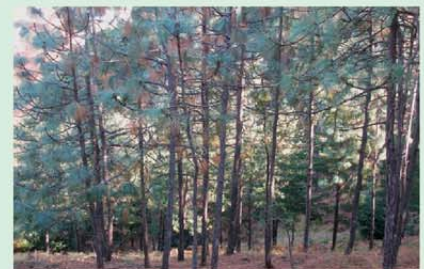
戦前の上賀茂試験地は現在の場所にはありませんでした。当時の試験地は、終戦直後に進駐軍に接收され、現在は京都ゴルフ倶楽部(上賀茂コース)となっています。接收に伴い、1949年、農林水産省から所管替えを受けて移転した場所が現在の場所です。

この移動によって貴重な植物の一部が失われましたが、現在でも京都ゴルフ倶楽部内には旧上賀茂試験地時代の植物が伝えられています。以後、1950年の隣接地の購入、1951年、1958年、2002年の所管替えを経て、現在の姿になりました。

**所在地と環境** 上賀茂試験地は京都市北区上賀茂本山に位置し、京都大学の本部キャンパスからは、直線にして北に5 km程度、車で25分ほどの距離です。叡山電鉄の京都精華大学前駅が最寄りの駅で、ここからは徒歩10分程度で来ることができます。総面積は47.0ha、谷を隔てた東向かいに京都精華大学、尾根を隔てた西側に京都産業大学があり、隣接する北側にはかつては上賀茂試験地の所有地であった土地に総合地球環境学研究所が所在します。

標高は109m~225m、京都産業大学の敷地に接する最高地点付近からは、京都盆地を南西方向に一望でき、晴れ渡った日には京都駅ビルはもちろん、遠く奈良県北部の山々や大阪府枚方市までが遠望できます。地質は古生層に一部新洪積層が混ざり、母材は砂岩や粘板岩からなります。土壌は浅く、酸性で養分物質が乏しい状態です。年平均気温は14.6℃、年降水量は1582mmで、例年冬季に数回の積雪があります。

総面積の65%はヒノキとアカマツに広葉樹が混交した天然生林、28%が外国産樹種を主とした人工林、7%が見本園、苗畑、建物敷地となっています。天然生林はかつてはほとんどがアカマツ林でしたが、1970年代以降のマツ枯れ被害の拡大により、1990年代以降は、100年生以上のヒノキを含むヒノキ優占の林となっています。主な広葉樹は、コナラ、ソヨゴ、ネジキ、リョウブ、ヒサカキ、コバノミツバツツジなどです。



マツ属見本園

**研究と教育** 上賀茂試験地が現在地に移転した敗戦からの復興期は、大学では荒廃した森林と林業を再生するための研究が行われた時期でした。上賀茂試験地では、木材生産に有用な樹種を、国内自生種のみならず、海外の樹種からも見つけ出すことを目標にした研究が行われました。この目的を達するために、世界中の樹木の種子を取り寄せて、各樹種の成長が検証されました。その中で注目されたのがマツ属です。世界各国の研究機関とのネットワークから得た種子を用いて、様々なマツが植栽されました。これらの植栽地は現在もマツ属実験林として伝えられています。マツ属の種は世界に約100種あるとされていますが、これまでに85種が集められました。これらのマツを用いて、交雑育種に関する研究が行われたほか、1980年代以降には、マツ枯れの原因となるマツノサイセンチュウに対する抵抗性に関する研究も行われました。



この時期に構築された世界各地の研究所とのネットワークは現在も継続しており、約120の機関との種子交換を行っています。これまでに世界各地から取り寄せた樹木の種子は約4300種にのぼります。このうち、発芽して植栽され、成長している種は、99科、350属、750種にもなります。植物にかなり詳しい人でも、見たことのない樹木がたくさんあるのが上賀茂試験地です。このことは大きな特徴であるといえるでしょう。1950年には中国で生きた化石として再発見されたメタセコイアの苗木が日本に送られてきましたが、そのうちの3本は今も上賀茂試験地にあり、樹高40m近くに成長しています。一方、数棟あった温室で日本の気候に適應できない樹種も数多く栽培されていましたが、温室の維持が予算不足のために不可能となり、多くの種が失われました。

上賀茂試験地の持つコレクションはマツ属、ツツジ属に加えて、タケ亜属に代表されます。タケ類については、開花が希にしか記録されないことから、開花周期を知るために開花時に種子を収集して蒔き、それを育てています。これまでに、モウソウチクの発芽後67年目の開花が、1979年と1997年に記録されています。このような、結果がわかるまでに数十年以上かかる研究は、大学のような研究施設でしか行うことができません。上賀茂試験地はその重要性を認識した上で、植物を維持しています。コレクションは樹木が中心であることから、1990年代から、樹木園として位置づけ、維持管理を続けています。

上賀茂試験地には様々な標本を展示する標本館もあります。現在、樹木の材鑑標本が5000点、種子標本が700点など、総計約1万点の標本があります。



森林生物学実習

上賀茂試験地は本部キャンパスからの交通が至便であることから、数多くの教育・研究利用があります。教育面では、樹木識別、植物観察、土壤物理学、庭園管理などの実習の場として、学内外から利用されています。また、小学生らを対象にした環境教育の場としての利用があるほか、試験地が自ら行う一般を対象にした自然観察会を毎年数回行い、地域の方々に公開しています。研究、教育ともに、その内容は、かつての林業色の強いものから、生態や環境を学ぶものにシフトしているようです。上賀茂試験地は常に、森林植生の不思議を解き明かすために、また、人間と森林との関係を研究するために場を提供してきました。2003年には農学部附属演習林から、独立部局であるフィールド科学教育研究センターの一員となりました。樹木園に要求される遺伝子バンクとしての機能による貢献、二次的自然の再評価のために重要と考えられる里山の管理に関する新たな提案、といういずれも地球環境問題を考える上で最も重要な課題を解決する場として、さらに活動を進めていくこととなります。

### 職員構成

教員 2人、技術職員 6人、  
大学院学生 3人



竹見本園

上賀茂試験地では、全面積の半分以上を二次的植生が占めています。これらの植生は、京都盆地をとりまく植生の一部として重要です。京都市の名勝の多くが世界遺産の指定を受ける過程では、上賀茂試験地は上賀茂神社の奥山として注目されました。上賀茂試験地の二次的植生は、京都盆地周辺を代表する里山植生の一つであり、里山の再生手法を検討する場としても研究が進んでいます。これまではそれほど大きな注目は集めてこなかった天然生林ですが、現在では里山研究の一つの中心として、上賀茂試験地の天然生林は重要な位置を占めるようになっています。

### 連絡先 上賀茂試験地

住所 〒603-8047 京都市北区上賀茂本山2  
電話 075-781-2404  
FAX 075-723-1262  
E-mail kamigamo@kais.kyoto-u.ac.jp

### アクセス

- 地下鉄国際会館前駅から京都バス「京都産業大学行き」で京都精華大学前駅下車徒歩約10分
- 叡山電車「鞍馬行き(または二軒茶屋行き・市原行き)」で京都精華大前駅下車徒歩10分